

コミュニティー友達家族

——こどもの居場所は大人の居場所にあった——

近 江 阿梨耶

宮 崎 あかね

自己紹介

●近江 みなさん、こんにちは。今日は西先生はじめ、皆さんにこの場を設けていただいて、皆さんの前でお話できることをとても嬉しく思っています。今日は一時間ちよつとお時間ですけれども、よろしく願います。

私は、五条大宮にある浄土真宗、こちらと同じ真宗大谷派の寶蓮寺の長女として生まれました。四人兄弟の一番上で、妹と、弟が二人います。長男が親から「住職になるかどうかは大学を卒業してから決断して」と言われていたので、住職になりたいと思っていた私

は、その弟の決断を待っていたんですね。私は、お寺のお坊さんとして、年齢とか関係なくいろいろな人と携われるお仕事がとても楽しくて、手を合わせて生活できることに感謝の気持ちがあるものすごくあったので、続けたいなという気持ちがあったんです。でも、弟が住職になるという決断をしてくれたので、私はまた別の道を歩もうと思いい、石川県加賀市に辿り着きました。そして今、初めて日本の社会に入ったという感じで、公務員、広報の仕事についています。私は三十五歳なんですけど、これからどう生きていくのか、日々、落ち込む日もあれば、ワクワクする日もあれば……、いろいろなことの繰り返しで、今日を迎えています。簡単な説明ですけど、私の自己紹介とさせていただきます。

●宮崎 はじめまして。私は先ほど紹介していただいたとおり、京都造形芸術大学、今は京都芸術大学に名前が変わっているんですけども、その「こども芸術学科」で四年間学んで、その後、「こども芸術」をキーワードにした学内の幼児教育機関で六年間、保育士をしてきました。そして、保育士を辞めて独立しようと、もう少し専門的にやりたいなと思いい、今は様々な現場でアート活動をしています。障がいのある方や、地域の方、幼稚園、保育園の子どもたちと、一緒に手を動かしながら「面白いものができた」と見せあつ

たり、おしゃべりしたり、アート活動を中心としたコミュニティーづくりをしています。

●近江 私もまだ緊張しているので、ほぐすためにも、一回、皆さんに立っていただきま
す。職員の皆さんも立ってください。今日私は、講師、先生という立場で呼ばれたんです
けど、いち人間として皆さんと接したいと思います。私はみんなから「あーちゃん」と呼
ばれています。こっちは「あかねちゃん」です。

自分を表現する時に、「女性である」「お坊さんである」……いろいろあると思います。
みなさん、自分に当てはまる時には立っていただいで、当てはまらない時には一回座って
ください。

学生のみなさん、立ってください。

長女のみなさん、立ってください。

一人っ子のみなさん、立ってください。

今、バイトをしている人、立ってください。

今、バイトが楽しい人、立ってください。

この土日、楽しい予定が入っている人、立ってください。

もうすでに紅葉を楽しんでいる人、立ってください。

京都出身の方、立ってください。

ちなみに、石川県出身の方、立ってください。

九州から来られている学生さん、おられますか。関西の方がほとんどなのかな。

関西じゃない方、立ってください。

これから先生になりたい人、立ってください。保育士も入ります。

ありがとうございます。こうやってみたら、先生になる、ならない関係なく、皆さんは今、教育の現場にいますし、これから、母になる人もいれば、ならない人もいると思いますが、教育、育てる、ということには関係してくると思うので、今日はそんな話ができたらなと思います。すみません、座ってください。

最初にあかねちゃんと、私、あーちゃんの出会いを話していきたいと思います。最初に会ったきっかけを覚えていますか。

二人の出会い

●宮崎 一番最初、大学三回生の時のゼミです。子どもの絵本やおモチャをデザインするゼミや、油画と日本画などの絵画表現のゼミなどいろいろあったんですけど、私は学外に出向いて創作活動をするゼミだったんですね。工作やアート系だけでなく、一緒にご飯を作ってみんなで食べたり、作業を一緒にしたり……。そこに、学生さんと一緒に何かやりたいと、遊びに来ていた中の一人がありやちゃんでした。岡崎別院の親鸞聖人七百五十回忌でしたね、そこに来るお檀家さんの小さい子どもたち向けにワークショップをしてほしいと、学科に来られたんですけど、それが最初の出会いでした。その時はアメリカから帰ってきたばかりで、日本語が怪しい時に出会いました（笑い）。

●近江 その時、あかねちゃんは大学生で、私は卒業したばかりだったので、親近感もありました。私は京都のことをまず何も知らなかったし、美大に憧れもあったので、一緒に地域のお子さんを巻き込んで楽しいことをしたいなど。お寺は法事をする場所とか、お

葬式をする場所とか、堅いイメージがあるのかなと思うんですけど、本来は、みんなが集まる、イオンモールみたいな場所だと思うんです。おじいちゃん、おばあちゃんもいたり、ちょっとほっこりする場所があったり、足を止めてお手洗いを使ったり……。出来るだけ身近な場所であってほしいなと思っていたので、親鸞聖人七百五十回忌の時に、できるだけいろいろな人を巻き込んだ、一大行事をしようという私の父の思いもあって、造形大学、大谷大学……。その時はたまたま光華女子大学はなかったんですけど、いろんなところに声をかけたんですね。それが最初のきっかけです。あかねちゃんは、造形大学内の「こども芸術大学」で親子に向けての……。

●宮崎 今は認可保育園になったんですけれども、私が就職した当時は、母子または父子の親子で通う学校みたいな形で、毎日、親子で登校して来て、二時まで一緒に活動するという、珍しいところでした。そこは、「芸術」と「自然」を柱にした学びの場で、親も共に体験するし、「今日は○○ちゃんのお母さんが、○○をやってくれるよ」というふうに参画してもらい活動をつくっていました。

●近江 私もふらふらと自分のしたいことをしたり、お寺の仕事をしたりして、お互いに連絡を取って会っていたりはしたけど、各々の道を歩んでいたんです。その後、私は結婚して子どもが生まれたんですけど、一言で言うともものすごく大変だったんですね。子どもを生んで仕事もする。実家の隣に住んでいたのも、母、おばあちゃんもいるという、ものすごく恵まれた環境でありながら、ものすごく大変だったんです。子育てってこんなに大変なの？という。一人の命を育てるってこんなに大変だったんだと。「お父さん、お母さん、ありがとう」というのは、自分が親にならないと聞いたことがあると思いますけど、ほんまにそうやなと痛感しました。そして私は「良い見本」を探さないとあかんなと思ったんです。そして、先にお母さんになっていたあかねちゃんと再会しました。あかねちゃんは六年間、保育士をしていて、私からしたらプロというか、こういうふうに子どもと接したらもっと楽しくなるとか、そういう技をいっぱい持っていたんですね。それを友だちから学ぶきっかけがあつて、それを、もっとたくさんの親御さんに広め

たいという思いから、あかねちゃんも、いろいろ試行錯誤して、Rainbow Kidsをつくりました。今もチャレンジし続けています。

Rainbow Kids Kyoto の三つの概念

●近江 Rainbow Kids では三つの軸をつくっています。①「子どもを育てるには村が必要」。It takes a village to raise a child っていう表現を聞いたことある人いる？ 子どもは村に育ててもらおう。一人の命をみんなに育ててもらおう。②「第二の家・友達家族」。二つ目が Rainbow Kids は第二の家。今日のタイトルにも入れましたけど、「友達家族」。これは私が考えた造語です。今日は兄弟がおられる人が多いみたいですけど、一人っ子もいるし、両親が共働きの人もいるし、おじいちゃん、おばあちゃんと一緒に住んでない人もいるし、本当に「核家族」が多くなってきたいて、「友だち」が「家族」みたいになってきていると思います。今も一人暮らしで、友だちの存在が支えになってる人もいます。ですが、それが Rainbow Kids の原点でもあります。元々あかねちゃんの「アトリエ tonbi」から始まったんですけど、今は寶蓮寺を活動の拠点としています。③「寶蓮寺の

モットー…「寺子屋・かけこみ寺」。お寺はむかし、寺子屋、かけこみ寺という存在でもあったので、いろいろな人が集まってくれるかな？というところから始まっています。

ありのままの自分でいられる場所

●近江　ここで、私はお寺で育ったから存在が当たり前だったんですけど、あかねちゃんが寶蓮寺のどこに惹かれたのか、ちょっと聞きたいと思います。

●宮崎　最初は岡崎別院の法要のための打ち合わせに通っていたんですけど、プロジェクトが終わってからも、ちょこちょこ遊びに行って、晩ご飯を一緒に食べたとか、お檀家さんがこんなことをするから一緒にどう？って誘ってもらったりして、お寺が自分のホームになっていったということがあります。他のお寺をあまり知らないということもあるんですけど、寶蓮寺は堅苦しくなくて、自分が自分らしくあれる場所です。仕事の際は仕事モードの自分、敬語を使って、身だしなみも整えて、漠然とちゃんとしないと……、という感じなんですけど、それが、自分のダメなところも含めて自分らしくいられるコミュニ

ティーだと思っています。自分らしく表現できることが居心地が良くて、しょっちゅう行っていたのかなと思います。

●近江 一人でもそう思ってもらえて、それをもっと広めていきたいなと思って Rainbow Kids を寶蓮寺ですることになりました。父と母も、四人を育てたという経験もありましたし、私たちに読んでくれた絵本もいっぱいあったりして、Rainbow Kids が生まれるちよつと前に子ども図書館をオープンしていたんですね。そしてコロナになって、児童館が閉まっていたり、行く場所がなくなったりして、この Rainbow Kids が生まれたということもあります。マスクをつけて、行く場所にも気をつけないといけないとか、そういうことを考えずに、子育てを楽しく、というところに重点を置きたかったです。

後から歌詞カードをお渡ししたいんですけど、寶蓮寺はわりと音楽を大事にしている、いろんなところに楽器があつて、パツとジャムセッションができたり、みんなを繋げるということを大切にしています。いろいろな試行錯誤して、今は「食」にも気持ちが向いています。やっぱり、美味しいものところにはみんなが寄ってくる。お寺で食べる〇〇とか、法事で食べた〇〇とか、みんなはそういう記憶あるかな。これ食べたの美味しかった

などか、そういう思い出がこれからの時代ちょっとずつ消えていくのかなとも思うし、お餅つき一つでも最近はなかったりするので、食べ物をとおして、音楽をとおして、お寺に来てもらえればいいなと思っています。地道な作業がコミュニティーをつくって、それが「友達家族」に繋がっていく。そこには笑顔があつて、笑顔がある所には希望があると思うので、そんな社会をつくっていききたいと思っています。

お寺という場所

●近江 お寺で活動する意味を考えているんですが、お寺は、No Judgement だと思っています。人を見下したりすることなく、仏さまの前ではみんなが平等でいられる。良い人、悪い人、という分け方もないし、さつき、あかねちゃんも言ってくれたんですけど、ありのままの自分、自分らしくいられる、ということもある……かな？（笑い）

Rainbow Kids はどこでもできるけど、お寺でする意味はどういうところにあると思いますか。

●宮崎 元々、活動自体は私の自宅兼アトリエでやっていたんですね。でも、普通のおうちだったら入りにくかったりもするんですけど、お寺は、お墓参りにお檀家さんが来たり、近所の方が「枇杷持ってきたし、食べ〜」って持って来てくれたり、比較的、誰でも入っていい場所という認識が私にもありましたし、寶蓮寺のモットーである、かけこみ寺、寺子屋、のイメージと、自分のやりたい活動がリンクしていたというのもありました。絶対にお寺の方が世代間交流もできるなと思いましたが、今は「多様性、多様性」って言われていますけど、実際は分けてしまっているところもあると思うし、分けないと難しい面もあると思うんですけど、お寺は唯一、いろいろなものがごちゃ混ぜになっても成り立つ、一番身近なコミュニティの場なのかなと思って、お寺でもうちよつと、もう一踏ん張り、頑張りたいたいなと思っています。

私は自分の実家がなくて父と同居しているんですけども、おばあちゃん家もコロナで遊びに行けない中、畳があって、お線香の良い香りがして、本堂には阿弥陀様がいて……とすごく落ち着いた、「おかえり」と聞こえてきそうなおばあちゃん家の原風景と重なる部分があるんですね。そういう空間であることも含めて、お寺でやる意味はあると思っています。もうちょつと活かせたらいいなと思うところもあるんですけど。

●近江 まだまだ敷居が高いイメージがあるのかな。あと、親御さんがみんな忙しいというのもあるよね。育休をそんなに長い間取れないとか。その中で、親が楽できて、Kidsが楽しめて、親も楽しめて、という。Rainbow Kidsには子どもだけじゃなくて、学生も、大人も、おじいちゃん、おばあちゃんも、みんながKidsの心に戻る場所、純粹な気持ちになれる場所という意味も込められているんですね。今、SDGsとか、LGBTQとか、みんなを受け入れる場所っていうのも、実際に受け入れられている場所は意外と少ないとも思うから、それを出来るだけ前に出していききたいけど……。いろんな人を巻き込むのって本当に地道な作業ですね。それは一日で変わることもないし、信頼関係だったり、友だちを増やすだけのことやねんけど、自分が楽しくしてたら、そこに人は寄ってくるし。自分が楽しく子育てをしてたら、周りもその風景を見て、「家族っていいな」とか、そういうふうに関がしてくれたから今の自分があるんやなとか思うし。今、私の娘は三歳やねんけど、何をどこまで覚えてきているのかなって、こんなにも悩んでいろいろな経験をさせているけど、どこまで記憶に残っているのかなって思うけど、ふわ〜と残っているだけでいいのかなと、そこが大切な部分なのかなと。今日も、眠い人もいるよな(笑い)、それだけみんな頑張っているんやなと思うから、先生たちもみんな、職員さんたち

も、毎日の生活って本当に大変なことばかりだなんて思うから、その中で、今日のこの時間を一緒に共有できて、それがふわ〜つとどこかの記憶に残っていたらいいなと思います。

こどもの居場所は大人の居場所にあった

●近江 今日タイトルにもあります「こどもの居場所は大人の居場所にあった」。コロナをきっかけにじゃないけど、不登校とか、不登園。幼稚園、保育園の時点で、「行きたくない」という子が増えている中、そういうファミリーたちにも響くような Rainbow Kids をつくりたいという思いもあります。そのファミリーの話の一つ紹介したいと思います。

●近江 何歳？

●宮崎 今、年長さんで、来年少学生の女の子。

●近江　が、ずっと続けて、しかも大阪から、毎週火曜日を活動日にしてるんやけど、来てくれて、女の子は幼稚園に行きたくない。それを、もちろんお母さんも心配して、幼稚園の先生とかにいろいろお話をしたり、相談をするんやけど、そこでのコミュニケーションがうまく取れなくて、お母さんもすごく不安になってしまって、娘ちゃんを行かせるのも難しくなって、娘ちゃんも「行きたくない、行きたくない」っていうので、娘の気持ちも尊重したい、というところから始まって、で、Rainbow Kidsの活動を知っていたいて来てくれたんやけど、そこから一年ちよつと経つけど、どんなふうに成長したと思う？

●宮崎　最初は子どもの困り事として、幼稚園に行けなくて家にいるのも何やし、ということでお寺に来てくれてたんですけど、よくよくしゃべってみたら、お母さん自身が生きづらかったりとか、苦手な事が多い、マルチタスクが出来ない、だから料理が出来ない、とか、お母さん自身がしんどかったんやなということが分かって。子どもってというのは、大人が「大丈夫、大丈夫」って言ってくれたら、「大丈夫なんかな」って一歩踏み出せるきっかけにもなるんですけど、やつぱり、お母さんが不安だったり、しんどい状況にある

と、子どもも不安になってお母さんから離れない。「この子はこういうの苦手だから」とか、「これもできないから」という形で、決めつけじゃないけど、見たことがないからもちろん信じれないと思うんですけど、そういうふうにお互いいっぱいになって二人で共倒れしているような状況から、お母さんがどんどん私たちとしゃべったりとか、「ママ友がいなかった」って言ってたけど、毎週京都に来る形で、友だち関係から始めて、お母さんが「お寺に行きたい」というふうなところから、子どももお寺も一つの学びの場所として捉えて、でも、他の日には幼稚園に頑張ってる様子とか、そういう形で、今は行ってます。行けるようになって、しばらくお寺には来てないんですけど。

●近江 お寺では月一でクッキングクラスとかもあって、簡単に健康で美味しいものを作るという回もしているから、そこで、パスタとか作ったことなかったのに、パスタみんなで作って、おうちでも作れるようになって、子どもさんも、好き嫌いが激しかったのに、ちよつとずつ、お寺だったら食べられるとか、そういう成長をみんなで見守れる、そういう環境が、今、Rainbow Kidsにはあるよね。

Rainbow Kids Song

●近江 今日、後でみんな一緒に歌ってもらうからね(笑い)。この「Rainbow Kids Song」は、実は私の母が作詞作曲した歌で、われわれが思っていたRainbow Kidsの思いを全部凝縮してくれたよね。みんなを受け入れるってどういうことなのか、これからもわれわれが模索していくところなんだけど、歌ってすごく分かりやすいし、みんなを繋げてくれるし、三歳の娘も何かしらない時に口ずさんでたりとか、そこで明るい気持ちになれるというのが、一番大切なかなと思うから。

さっそくやけど、みんな一緒に練習してね(笑い)。みんな歌詞カード持ってますか。一回、私とあかねちゃんが歌うので、その続きでみんな一緒に歌って欲しいので、その時は立っていただきます(笑い)

Rainbow Kids Song

なないろの笑顔が輝く出会い

ゆっくり歩こう 手をつなごう

大空にカラフルな夢を描いて

レインボーキッズ レインボーキッズ

We love your dream

なないろのどれが大好きかな

どんな色だつてすてきだよね

あなたが大きく広げたい色を

Red! Orange! Yellow! Green! Blue!

Indigo! Purple!

Which do you like?

レインボーキッズ レインボーキッズ

●近江 こんな感じで。キャッチーな感じで、みんな歌えそうですか。

●宮崎 いきなりは（笑い）。私も今日ギターを練習しました。

——歌の練習——

●近江 ありがとうございます。来月の十二月二十五日の日曜日、ちょうどクリスマスの日、朝の十時から一時まで、お寺でお餅つきをするんです。その時に、この歌も歌うから、お餅食べ放題なので、みなさんぜひ、遊びに来て下さい。寶蓮寺って検索したら場所も分かると思います。インスタとかもしているので、ぜひぜひ、みんな美味しいお餅を食べに来て下さい。

こういう一緒に歌うということから、みんなの笑顔が生まれたりすると思うから、昔の歌でも楽しい曲いっぱいあると思うけど、童謡ってすごく記憶に残るし、子育てしてる中

でも、自分の親とか先生が歌ってくれたから自然に出てくるもので、それが自然とみんなを笑顔にしてくれるから、そういうところから生まれたこの「Rainbow Kids Song」です。寶蓮寺にはバンドがあるからね。あと楽器何がある？

●宮崎 普段はパーカッションと、ギターと、キーボードと、鳴り物系。参加してくれた方が好きな楽器を選び、手話ができる人は手話で参加したりとか、踊りで参加したりとか、やりたくない人は聞いておくだけとか、思い思いに参加してもらってます。

●近江 実はもう一人 Rainbow Kids のメンバーがいて、しょうこちゃんは今手話に没頭しています。しょうこちゃんはリズムと音楽で加わってくれていて、体を動かすところからも成長を見ることができると、ちょっとシャイな人たちでも、その時間が終わったら、みんながもうちょっと明るく、もうちょっと仲良くなれるところもあるから。手話は面白よね。

出会う 人を知る

●宮崎 保育士になる時に、子どものことだけを学ぶと思っていただけ、結局、赤ちゃんから、おじいちゃん、おばあちゃんになるまでの全ての人たちと関わって、どんな職業でもそうやと思うんですけど、手話を使って会話する人たちとか、目が見えない人とも一緒に製作をしているんですけど、それは自分がその世界に入らなければ、目が見えない人がいることも、知ってはいただけど、出会ったことがなければ分からないし、肢体不自由で、体が思うように動かない子たちを楽しませるために、どんな活動をしようかなとか。「対人」で考える。

●近江 教科書通りにいかないもんね。

●宮崎 身体的には健康やけども、おうちでしんどい思いをしている子どもが保育園に来た時に荒れていたりすると、その子自身の問題だと思いがちだけど、結局は大人がどうい

うふうに関わっていくかがすごい重要だなと思います。

●近江 こっちがイライラしているのって、子どもにも伝わるし、それに対してパニックになったり、でもこっちは「何でパニックになっているの」ってなりがちよね。

●宮崎 あなたがパニックになってますって。

●近江 できるだけ、われわれが楽しそうにしていないと、それが全部伝染していく。うまく隠しているつもりでいるんやけど、全然隠せてないよな。

●宮崎 子どもとか、障がいのある方って、動物とかもそうだけど、人の心をすごく読み取るので、親が緊張していたりすると、子どもも緊張したりとか。親が「大丈夫、行つといで」って言ったたら、パツと離れて行けたりもするし。結局、自分がどう生きたいか、どう楽しく生きられるかを考えていけたらいいんじゃないかなと。私も、今三十一歳なんですけど、好きなことしかできなくて、好きなことをやり続けて、お金はないけど楽しいと

か、それも考え方ですけどね。やりたいことのために、やりたくないことでお金を稼ごうとも一つだと思っし、何せ人との出会いが一番の肝やし、そこに尽きるとは思いますね。

●近江 私も、石川県には本当に縁もゆかりもない、親戚とか家族が住んでるわけでもないのに何で行ったかといったら、温泉に毎日入れて（笑い）、その温泉は村の中心にあつて、そこが銭湯みたいな温泉で、年パスを買って、みんながその温泉に行くんよね。そこには、おじいちゃんも、おばあちゃんもいるし、お風呂で出会った友だち、毎日会う友だちもいるし、コミュニティーの原型がその温泉にあるんやなど、本当に素晴らしいなと思つて。絶対にお風呂入るやん？ そこでのコミュニケーションであつたり、人との接し方であつたり。コミュニティーってこういうところから始まるんやなど、それをじゃあどうやっていろいろな場所で活かせるのかなっていうのに、ものすごく興味があつて、ポロ屋を買って、今DIYで直しながら生活をしているんやけど。自分ではすごい挑戦やつたし、未知な世界やつたし、でも、そこで生まれるワクワクだったり、世界も広がるから。

「自分らしく」模索する

●近江 でもやっぱり、「向いている」ことをしたいよね。自分の学生時代を思い返すと、私は大学終わってからすごく不安な気持ちになったんやけど、「何のために私は生きていくのかな」とか、「何のために勉強しているのかな」とか。でも取りあえず、自分がワクワクして、自分が「向いている」所にいたら、そこで楽しい出会いがあって、友だちができて。それがまたいつどこで繋がるか分からないから。私は、実家の寺のNHKのドキュメンタリーに出させてもらえて、その繋がりでも講演をお願いされたのかなと思っていたら、実は Rainbow Kids の活動で……、何て言ったらいいのかな。

●宮崎 ドイツ人で、インドの古典舞踊をやっているカマラさんというメンバーがいて、今は帰国しちゃったんですけど、そのお別れパーティに、カマラさんの弟子である、ある女の子が躍りに来てくれていて、それでしゃべってたんやね。その子が京都光華女子大学の山崎先生の娘さんで。

●近江　というのがきつかけで、今みんなの前に立たせてもらっているんやけど、本当に人間の繋がりがりって不思議。ご縁って本当に不思議。

●宮崎　そう思ったら、毎日、淡々としていたとしても、出会う時には出会うから、何も心配せず。こんなところでこんな人に出会って、それをきかけに自分の人生が変わることとも、仕事もそうだけど。

●近江　自分たちのクラスメイトで、十年後、二十年後に再会しているかもしれないし。出会う時って、あかねちゃんともそうやけど、この年でまたこんなに仲良くなると思っ
てなかったし。

●宮崎　出会った当初はここまで密じゃなかったけど。

●近江　私が一方的に、妹みたいに可愛がったなという。

●宮崎 今の方が同じ体験をしているし、話せることが増えたのかなと思うんですけど、自分らしくいられる場所にみんないて欲しいなと、今日はそれを言いたくて。どれが自分らしいか、っていうのもこれからだと思うんですけど、自分が生きたいように生きられる職場とか、家庭とか、そういう環境を自分でゲットしてもらえたら。辿り着けたらいいなと。

●近江 私も辿り着くまで頑張りたいなと思うし。今は公務員で、ぶっちゃけ、辛い（笑い）。自分らしくいれてないから。こんな髪形もできないし、ちょっと赤いタイツはいたと言われるし、正直本当に辛くて、みんな本当に頑張っているんやなって、こういう堅い日本の社会を全然知らずにアメリカで育ったから。普通に、若いお母さんでも、お父さんでも、残業して、それが当たり前前の社会にいて。私はありがたく今、「残業しない」って自分で決めたから、三歳の娘がいるし、三歳のこの時間って絶対に取り返しつかないから、その時間を絶対に大切にしたいと思って、私はみんなが仕事をしている中、「すいません」と思いながら先に帰るんやけど、でも何で「すいません」って思わなあかんねんやろって、いうところに今辿りついていて。組織やからちゃんと廻るんよね。育休取りづらい

とか、そういうのもみんな体験していくかもしれないけど、家族の時間とか、自分の時間とか、本当に大切にしたい。今、三十五で、二十代の若さと元気な時間って返って来ないから、自分がしたいことを突き通してほしい。それがまた違うところで絶対に生きるし。

本当に私は今、社会勉強をさせてもらっていると思って、堅苦しい格好をしながら、毎日「はあ、今日はちょっと行きたくないな……」とか、そういう日もあったりするんやけど、ポロツと「ああ、今日しんどいなあ」「仕事行きたくないなあ」って言ったら、娘が「あーちゃん、いつもやん」って言われて。ああ、全部バレていると思って。そんな背中を見せたくないなということで、今ちょっと自分の中で仕事改革を（笑い）。もつと自分が楽しく向き合っていないとか何も始まらないと思って。楽しい姿を娘に見せたいし、次の世代に見せたいなと。じゃないと、いい道が開かれないよね。

●宮崎　でも、親が苦勞してるところとか含めて、子どもはきつと分かってくれていると思うから、良いことだけじゃなくて、楽しいことだけじゃなくて、素直に忙しすぎて疲れて、イライラしてこんな言い方になってしまったって、子どもに言えば、私がつい言

い方をしても、「お母さん、疲れてんのかな」って逆に察してくれるふうにもなったし、自分の思いとか、今感じてることとかを素直に誰かに言える関係を、友だちでもいいし、しんどいことをしんどいって共有できる人がいるのはすごい楽かなとは思うかな。

●近江 我々はパートナーにめっちゃ感謝よな。好きなことが出来るのもパートナーの陰も大きいし、そこを出来るだけ尊敬しあつて、お互いにしたいことを、当たり前で「分かっててよ」じゃなくて、ちゃんと言葉にして、しゃべる時間を大切にするとというのが、大事よな……。忙しい時出来なくなるけど。

自分を大切に生きる

●宮崎 保育士とか教育関係に行きたいと思ってる人だけじゃなくて、全ての人が、保育、子育て、発達心理を、もし学んでいたら、今の学校で不登校の子がいたり、先生たちもどうしようもできないところで、しわ寄せが子どもに来ている現状もあるんですけど、もし、子どもに関わっている大人たちがそういうことを学んでいたら、しんどさを分かって

あげられると思うし、逆に言うと、いじめてる子の気持ちも分かるかもしれへんし。人と接して生きていかなあかんというのとはみんなに共通してると思うから、その中で、相手の立場とか、相手の状況とか、気持ちも、自分とは意見が違ってても、受け止めてあげられるようになったら、自分自身もそれに対して何かを思わなくても済むから、今勉強していることをもつともつと突き詰めていって欲しいなって密かに思っています。応援してます。

●近江 とにかく、今のこの時間を、楽しく、自分を大切に生きて欲しいよね。今のこの季節でしか味わえない京都の紅葉を、ぜひ足を運んで、本当にめっちゃスポーツあるから。私は東福寺に行くのも人生初めてで、「京都にいなながら、何でこれを知らなかったんやろう」ってところがいっぱいあるから。勉強も大事だけど、友だちと過ごす時間、自分と向き合う時間、悩む時間もすごく大切やし。青春の時間やから大切にして欲しいよね。

●宮崎 まさに青春。羨ましい(笑い)。学生時代は勉強とかバイトで忙しいと思うけど、自分の時間を自分でメイクして過ごせ。働きだしたら、家は寝る場所になるし、結婚したらやること山盛りやし、学生の今が一番最高やなって、自分の時を振り返っても、もう一

回大学生をやりたいって思うぐらい、楽しんで欲しいと思います。

●近江 またいろいろと更新されていくからね。楽しみ方も変わってくるし。

●近江 今日は、貴重なお時間をありがとうございました。

●宮崎 ありがとうございました。

●近江 今日は、変なお坊さんと、変な歌を歌わされたなと思ってもらえたら嬉しいです（笑い）。来月の十二月二十五日にお寺で「報恩お餅つき」をするので、お餅食べ放題で、大福から、お雑煮から、きな粉餅から、いろいろあるし、みんなでジャムセッシュンもするので、今日来ているみんなもそうやけど、お友達を連れてきてもらってもいいし、遊びに来て下さい。ありがとうございました。

●宮崎 ありがとうございました。

——質疑応答——

●フロアー① 今日のお二人のお話を聞いて、自分のことや友達のこと受け入れられないなど思うことがあったりするけれど、人生一度きりなので、今を楽しんでいきたいと思いました。

●近江 ありがとうございます。嬉しいです。話したかったことで今思い出した。人生って、たぶんいろんなタイミングがあるから。自分を受け入れて、私もぜんぜん冬眠の時期とかあったし。一ヶ月も布団から出られないみたいな。ぜんぜんあるから、そういう時期は時期で、自分と向き合う時間。

●宮崎 そうやね。お友達が受け入れにくい時もある。私も何なら、めっちゃ受け入れられへんし、認められへんこといっぱいあるし、友だちとかでも。でも自分が楽しく一緒にいるために、どこを妥協するかみたいなね(笑い)。タイミングで、「無理や」と思ったら、「またいつか会おう」みたいな感じのテンションで別れたらいいし。全然心配ないで

す。私も学生の時は授業でめっちゃ寝ていたから、寝ているの見て「懐かし」「わかる〜」みたいな気持ちにもなって話していたし。楽しめること、一人で家で趣味とかでもいいし、動画見ているのが楽しいでも十分やと思うけどね。ありがとう。

●フロアー② 貴重なお話ありがとうございました。感想をお話しさせていただきます。大人の気持ち子どもに影響するという話をお聞きして、実習のときでも、自分が焦ったりちょっと切羽詰まったりするのが子どもたちに伝わっているんじゃないかって思ってた、私たちの心をすごく読み取る力があるからこそ、私たち自身が楽しむということがどれだけ大切なのか、心のゆとりを持てる環境にいられるということが大事なのかを感じ取ることができました。どうもありがとうございました。

●近江 宮崎 ありがとうございます。

●宮崎 コロナ禍で私も一つ思ったのが、マスクを着けているから、例えば、しゃべることでできない乳児の子どもが大人の表情を全く読めないのは悪影響過ぎると思って。それ

どうにかならへんかと思って思っているけど、なかなか国が決めたことだとか、園の方針もあるから、自由には出来ないけど、やっぱりちょっとマスクを下げてコミュニケーションを取るとか、自分なりの工夫みたいなので、このコロナの時代、まだまだ続くかも分からへんけど、自分なりに思ったこととかも、臆せず実践していったらいいんじゃないかなと思います。

●近江　そこは私たちも議論があつて、マスク着けるか着けないか。今はいろいろな研究が出てきて、大人の表情を見て子どもはその表情を学んで、同じような顔をしたりするから、マスクを着けることで成長にどういう影響があるか、私もすごく心配なところですよ。Rainbow Kidsでは自己責任で、マスクを着きたい人は着けてもらつていいけど、絶対に着けないといけない場所じゃないよ。子どもたちに笑顔を見てもらいたいし、一緒に口を開けた笑い声とか、そういうのを全部ちゃんと吸収して欲しいなというのはありました。なので、これからどうなっていくかちょっと心配やけど。

●宮崎　あと、保育士だからとか、先生だからとか、実習は緊張すると思うし、最初は自

分じゃない自分で行くんやけど、結局こうやって話すみたいな感じで、子どもにも、先生たちにも、お母さんにも話した方が本意が伝わると思うから。緊張すると思うけど、可愛らしい、そのまんまの感じで親御さんとしゃべったり、子どもとしゃべったり。子どもが一番緊張せえへんから。すごい、ありがたいよね、子どもは（笑い）。子どもとだったら私もしゃべれるところが最初はあったから、緊張したら、子どもと遊んだり、子どもといっぱいしゃべったりしたらリラククスできるんじゃないかなとふと思いました。

●近江 宮崎 ありがとうございます。